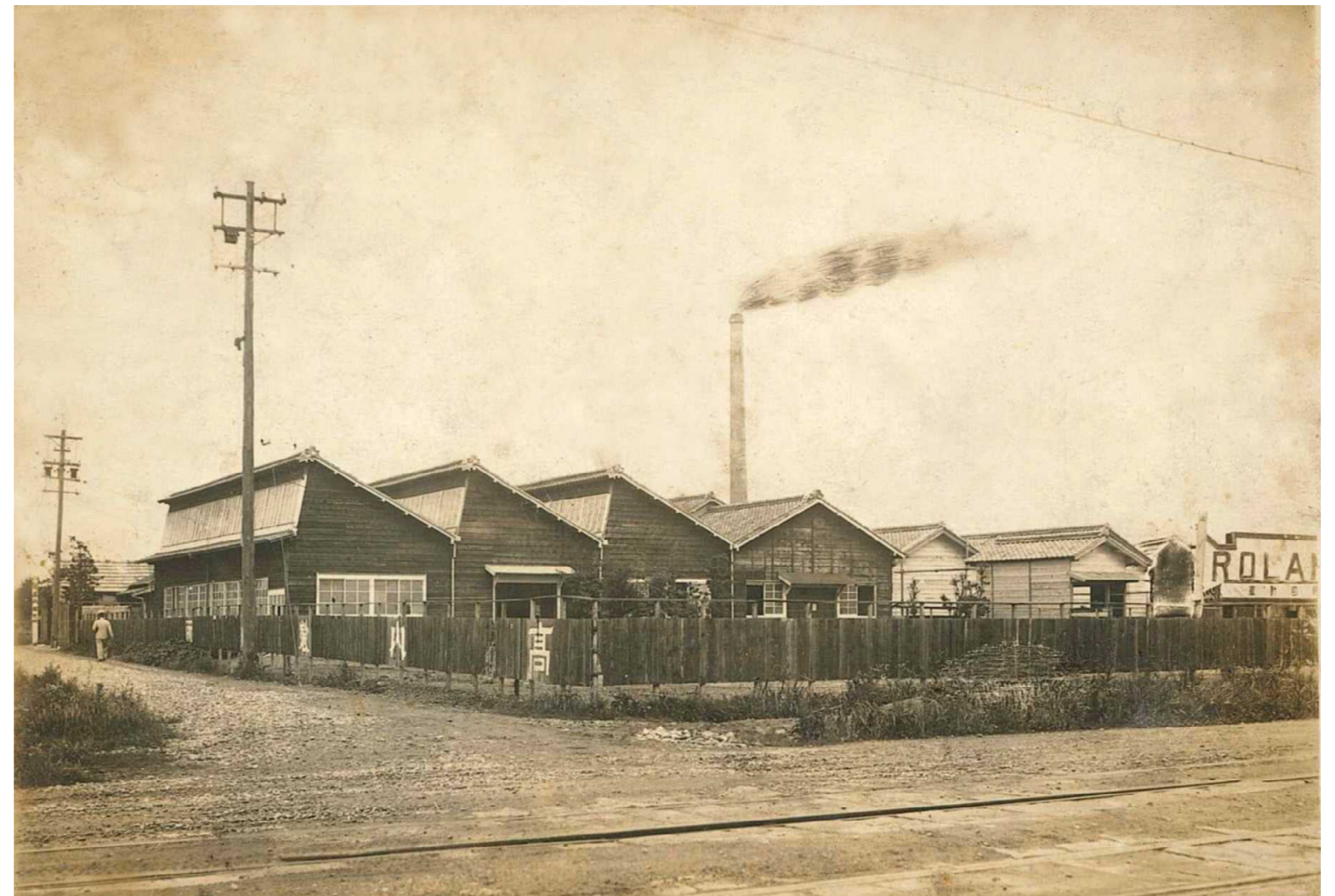


みづほ自動車製作所

ローランド号とキャブトンの生みの親

みづほ自動車製作所は、名古屋地区では最も古いオートバイメーカーで、1950年代メグロ、陸王などと並んで一世を風靡した大型車キャブトンを送り出したメーカーであるが、戦前には自動車を製作していた。社長、内藤正一（明治32年生）は祖父江町の出身で、12歳の時にワシノ商店に奉公にでた。そこで機械加工技術を学び、1923(大正12)年、23歳のとき航空機部品製作会社「みづほ」を中区に設立した。

内藤は、1931(昭和6)年に川真田和汪と共同で、日本初の前輪駆動による小型自動車、V型2気筒、排気量500cc、出力18.5馬力の水冷4サイクルガソリンエンジンを搭載したローランド号を製作した。



高内製作所(名古屋市中川区玉船町) (1931)
右端にローランドの看板が見える。

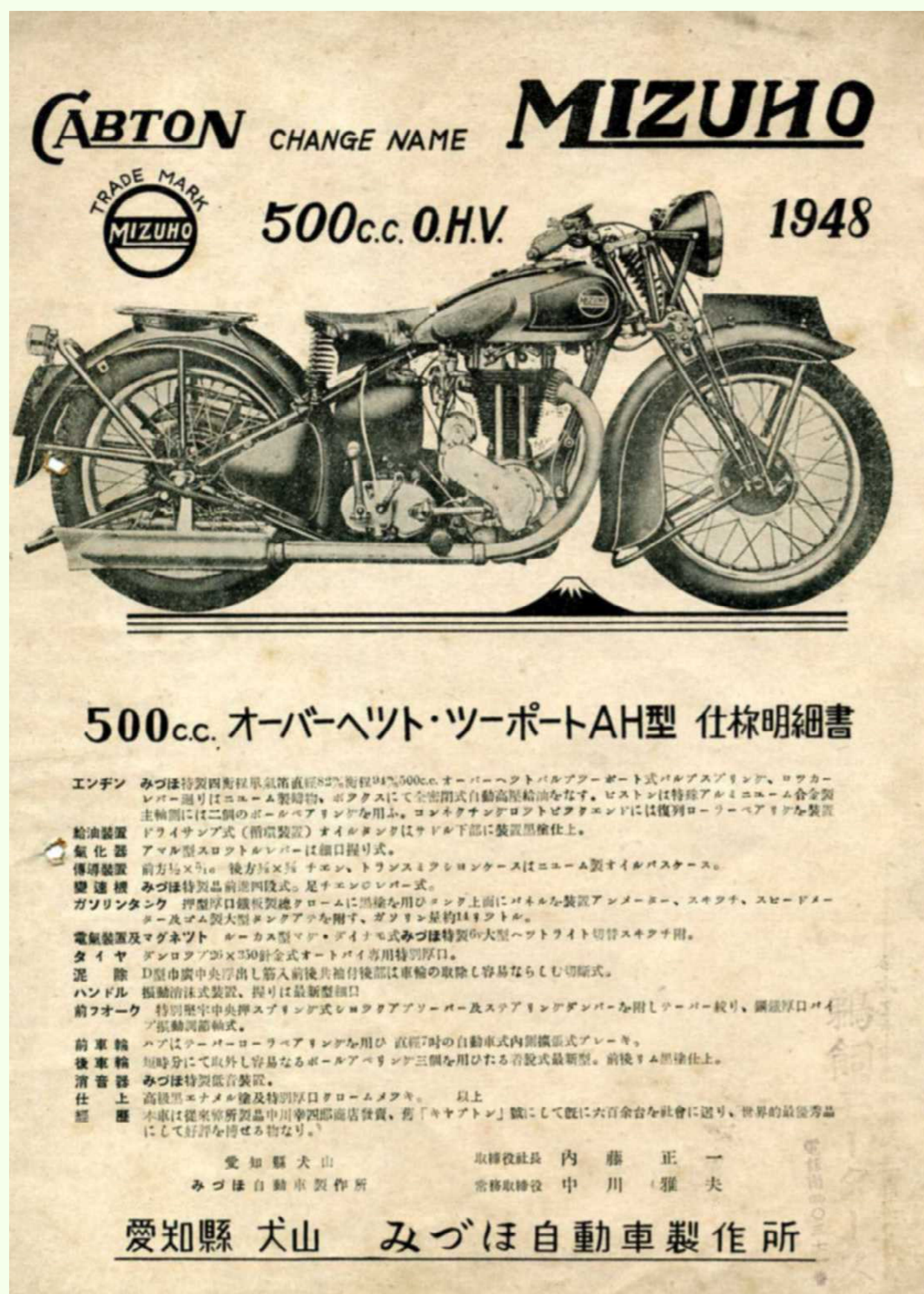


1931年、東京上野の自動車市場博覧会にローランド号3台出品。内1台は高松宮殿下が御買い上げ。

ローランド号は、高松宮殿下が御買い上げになるほど称賛を博した。内藤は同タイプの小型自動車「みづほ」を販売したが、資金難でその生産は中止となった。1934(昭和9)年に個人経営にもどり、自動三輪車ジャイアント号のエンジンを製作した後に、大阪鳴尾の中川幸四郎の依頼でオートバイ「キャブトン」を生産を始めて、1936(昭和11)年にみづほ自動車製作所となった。

一方、川真田は、1934(昭和9)年にローランド号の製造権利を東京の昭和自動車に譲渡し、「筑波」として生まれ変わり、130台が販売された。その後、川真田は、1949(昭和24)年に刈谷市でオートバイメーカー「トヨモーターズ」を設立している。

一世を風靡した大型車CABTON



みづほ・キャブトンの仕様明細書(1948)

CABTON(キャブトン)の車名はCome And Buy To Osaka Nakagawa=オートバイを大阪の中川幸四郎商店で買ってくださいに由来する。キャブトンは大阪で英国オートバイのアリエルを輸入販売していた中川商店のオリジナルバイクである。1936(昭和11)年エンジン製作の実績があった内藤正一に製作を依頼してきた。

内藤正一は、みづほ自動車製作所を立上げ、空冷単気筒500ccエンジンはじめ水冷2気筒750ccエンジンまで10種類を越えるラインナップを揃えたエンジンメーカーになっていた。キャブトンは量産体制に入り、アリエル似の国産大型オートバイとして人気を得たのである。戦時中は海軍の指定工場となった。工場は中川区の玉船町にあったが、1945(昭和20)年3月の名古屋大空襲で焼失した。工場内にあった自宅も焼け、家族を失い、本人も大やけどを負った。軍によって犬山に工場疎開が決まったことで、戦後、キャブトンの生産再開は犬山からはじまったのである。